

講習の名称：自然の生い立ち、土地の履歴と自然災害

担当講師：青山 雅史（教育学部准教授）

講習開講日：令和2年8月21日（金）

時間数：6時間

主な受講対象者：小・中（社会）・高等学校（地理歴史）教諭

キーワード：地形、土地の履歴、自然災害、災害碑、地図

講習の概要：

今後の自然災害による被害軽減を図るうえで、私たちが暮らしている地域の地形の生い立ちや土地利用の変遷などといった「土地の履歴」をよく知り、地域に残された災害教訓を学ぶことは重要です。本講習では、いくつかの地域の土地の履歴と自然災害による被害、新しい地図記号「自然災害伝承碑」に関連した話題などについて、具体事例を通して解説します。地形図を用いた読図作業や群馬大学荒牧キャンパス周辺での野外観察も行う予定です。

講習の展開：

第1時限 「土地の履歴」知ることはなぜ大事か？

第2時限 自然災害被災域の土地の履歴、土地条件と災害教訓

第3時限 さまざまな地図（地理空間情報）の活用方法と地図を用いた作業

第4時限 群馬大学荒牧キャンパス周辺の地形と土地利用の野外観察

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：

おもに自然地理学に関連した内容について取り上げていきます。

群馬大学荒牧キャンパス周辺の地形と土地利用に関して、地形図と色鉛筆 5 色程度を用いた作業、および90分程度の野外観察をおこなう予定です。講習時に色鉛筆をご持参ください。また、講習時にさまざまな地図を紹介・解説します。web上で公開されているハザードマップや「地理院地図」などを事前に閲覧し、土地の履歴や災害リスクを把握する際にどのような地図や空中写真が利用できるか、各自で確認しておくようにしてください。

授業の形式： 講義、地形図と色鉛筆を用いた簡単な実習、野外観察（フィールドワーク）

履修認定試験： 論述形式の筆記試験を課します（ノート・配布資料の持込可）。

テキスト・参考文献：

◎講義資料と講習時に利用する地形図はこちらで準備・配布します。

◎参考文献

鈴木 康弘 編 『防災・減災につながるハザードマップの活かし方』 岩波書店 2015